

令和元年度第2回東海村（仮称）歴史と未来の交流館展示監修委員会 会議録

1. 日時	令和2年3月9日（月）13:30～15:00
2. 場所	中央公民館会議室4・5
3. 出席者	高橋修委員長，塩谷修副委員長，安嶋隆委員，菊池芳文委員，瓦吹堅委員，宮内教男委員，高橋裕文委員，萩谷信輝委員，林圭史委員，小野寺淳委員，宮田裕紀枝委員
4. 欠席者	益子美由希委員，佐々木啓委員
5. 議題	(1) 展示室1の製作について (2) 展示室2の進め方について

主な発言内容

(1) 展示室1の進め方について

- ・活動エリアについて，想定する活動内容や対象からは，資料のテーブルよりも作業机の方が活動しやすいのでは。
- ・季節ごとの展示替えて，同じ季節には同じものが展示されるとなると，どういう風に新しく見せていくかが課題。博物館・資料館は触れるものとか実物を見に来るというイメージがみんなある。映像で確認できるようなこと，外に見に行けば確認できることというのは，わざわざ建物に見に来てくれない。このあたりを整理しておく必要があるだろう。
- ・体験だけでなく，例えば質問コーナーのような機能を持たせると面白いのではないか。
- ・松戸市立博物館は体験コーナーに人が常にいる。自由な体験活動は難しいのでは。
- ・資料にある体験活動の例からは，人がついてしっかりした作業机が必要なもののように見える。ここはもっと簡単な体験として，場所で体験活動を分けるなら整理した方がよい。
- ・真弓山方面の壁面イラストについて，阿漕ヶ浦を入れられないか，描く範囲を検討してほしい。
- ・学芸員の仕事が多すぎると運営が難しくなるので検討した方がよい。
- ・学校とのコラボレーションを検討するとよい。小中学校では，学校以外の施設を訪問して主体的に学ぶことが必須になっているので，学校側の希望を取り入れるなどして交流館に通ってくれる仕組みを構築した方がよい。高校生は殆ど博物館に行ったことがない子が殆どなので，こちらも来館する仕組みを検討した方がよい。
- ・教員や学芸員が提供する情報なく自由に体験できるとしても，来館者は予想通りには動いてくれないのでよく考えた方がよい。
- ・展示替え年4回というのは相当の負担だと感じる。学芸員だけでなく村民の力を借りたり，我々展示監修委員もサポートしていきたい。
- ・体験コーナーで自由に遊んでもらうのは定着させるまでは難しいと実体験から感じる。理想は学芸員の常駐だが，将来的には遊びを教えるボランティアさんがいるという体制になるとよい。体験コーナーやワークショップの成果物を展示するなど，体験・体感エリアが増えていくことを期待する。